

本県にまん延防止等重点措置が適用されている期間の教育活動の留意点
(令和4年1月20日時点)

- 感染リスクの高い活動について、より慎重な判断の下、教育活動を工夫して行うこととし、感染状況等によっては直前であっても内容の変更、延期又は中止を検討すること。
- 学校行事については、引き続きwithコロナの時代を踏まえた学校の新しい生活様式を工夫し、その教育的意義や必要性を再度吟味するなど思い切った見直しを行うこと。実施する場合は、感染防止対策を徹底したうえで、実施方法・内容・時期を十分検討すること。なお、年間行事予定として計画していても、地域の感染状況等により、必要に応じて実施時期の変更、日程の短縮又は中止とするなど、万一臨時休校等があっても授業時間が不足することがないように、臨機応変に対応すること。
- 臨時休校、学年閉鎖等に備え、あらかじめ、家庭でも行える学習内容と学校でなければ行えない内容を重点化するなどの取り組みを進め、登校による対面指導と家庭におけるオンライン学習等を効果的に組み合わせ実施すること。また、課題の配信、回収、評価及び事後指導がしやすいように、紙ベースでの課題のやりとりのほか、例えば著作権に配慮したうえで授業動画を作成・配信したり（全生徒がSARTRASに加入済み）、クラウド版グループウェアの機能や学校独自の学習支援ソフトを活用したりするなど、積極的にICTの利活用を図ること。

1 登下校の形態について

通学時の混雑回避を目的とし、地域の感染状況や交通事情等の実情に応じ、学校長の判断で時差通学を実施する。なお、時差通学を実施する場合は、事前に関係課に相談すること。

※以下の例（全日制高校の場合）を参考に、電車・バスによる通学が混雑時を避けた時間帯となるように、地域の交通事情等を踏まえて、始業時刻・終業時刻を定め、短縮授業45分とする。（40分も可）

(例1) 45分授業

9時登校				9時55分登校			
SHR	9:00	健康チェック		SHR	9:55	健康チェック	
1	9:10	～	9:55	2	10:05	～	10:50
2	10:05	～	10:50	3	11:00	～	11:45
3	11:00	～	11:45	4	11:55	～	12:40
4	11:55	～	12:40				
昼 食							
5	13:25	～	14:10	5	13:25	～	14:10
6	14:20	～	15:05	6	14:20	～	15:05
SHR	15:10			1	15:10	～	15:55
				SHR	16:00		

(例2) 40分授業

9時30分登校				10時20分登校			
SHR	9:30	健康チェック		SHR	10:20	健康チェック	
1	9:40	～	10:20	2	10:30	～	11:10
2	10:30	～	11:10	3	11:20	～	12:00
3	11:20	～	12:00	4	12:10	～	12:50
4	12:10	～	12:50				
昼 食							
5	13:35	～	14:15	5	13:35	～	14:15
6	14:25	～	15:05	6	14:25	～	15:05
SHR	15:10			1	15:10	～	15:55
				SHR	16:00		

2 学校行事等について

(1) 全校集会、学年集会、PTA総会等

- ・十分な感染防止対策とともに、可能な限り参加人数を少なくする、短時間で行う、身体的距離を確保する、リモートで実施する等の工夫をすること。
- ・オンラインや一斉放送等による実施も検討すること。

(2) ホームルーム活動、生徒会活動等

- ・密接する場면을極力避ける等、工夫すること。

(3) ボランティア活動・就業体験

- ・活動先の相手との打合せを十分に行い、感染防止対策を行うこと。

(4) 学習発表会、音楽会等

- ・在校生のみによる実施とすること。
- ・学年・クラスごとに映像や音声にとり、校内放送で流す等の工夫も検討すること。
- ・身体的距離を確保し、活動する際は、感染防止対策を十分に行うこと。
- ・実施の際は、施設の状況に応じて十分な換気などと組み合わせること。

(5) 国内修学旅行、校外行事等

- ・校外行事等では県外への旅行等は行わない。
- ・修学旅行の実施については、令和3年6月1日付け教学指第337号・教特第193号「令和3年度修学旅行の実施における留意点について」(通知)によることとする。なお、感染力が強いといわれるオミクロン株が急速に拡大していることから、実施に当たっては、感染防止対策や現地で感染者が出た場合の対応等について、改めて保護者に説明し十分な理解を得た上で、実施について慎重に判断すること。

(6) 海外修学旅行等

- ・当面の間、行わないこととする。生徒・保護者に対して説明をすること。なお、状況が変わった場合には、改めて通知する。

(7) 講師を招いた講演会等

- ・実施の必要性を十分吟味し、校長が認めた講師である場合のみ可とする。実施の際は、講師と児童生徒間の身体的距離を十分に確保すること。なお、講師の体調を十分把握するとともに、講師の感染防止対策にも配慮すること。
- ・体育館等で行う場合は、身体的距離を確保するとともに、施設の状況に応じて適宜換気などと組み合わせ、できるだけ短時間で実施すること。

(8) 芸術鑑賞会等

- ・実施は、参加者の身体的距離を確保するとともに、施設の状況に応じて頻繁な換気などと組み合わせるなどの感染防止対策が行える場合のみ可能とする。なお、実施する際は、できるだけ短時間とすること。
- ・今後の感染状況により、実施を見送ることも検討すること。

(9) 防火訓練(消火訓練)、避難訓練等

- ・実施の際は、身体的距離を確保するとともに、施設の状況に応じて頻繁な換気などと組み合わせ、できるだけ短時間で実施すること。
- ・各教室で事前指導を十分に行い、実施内容についても十分検討すること。

(10) 1000か所ミニ集会等

- ・実施の際は、身体的距離を確保するとともに、施設の状況に応じて頻繁な換気など

と組み合わせ、実施方法も含め、弾力的に工夫し、実施する際は、できるだけ短時間とすること。

- ・不特定多数の者が参加することは控えるとともに、参加者の体調を十分把握するよう努め、体調不良の者の参加は控えてもらうこと。
- (11) 学校説明会、体験入学等
- ・オンラインでの実施も検討すること。
 - ・実施は、参加者の身体的距離を確保するとともに、施設の状況に応じて頻繁な換気などと組み合わせるなどの感染防止対策が行える場合のみ可能とする。なお、実施する際は、できるだけ短時間とすること。
 - ・参加者に健康観察シートの提出を求めるなど、体調確認、連絡先の把握を確実にを行うこと。
- (12) その他
- ・大学入試、就職試験等の生徒の学校外の活動については、移動の際の飲食等は厳に慎み、寄り道をせず、速やかに帰宅するよう指導する。

3 学習活動等について

(1) 基本的な留意点

- ・新型コロナウイルス感染症による教育活動への影響を考慮し、各教科・科目の目標を踏まえた上で、指導する内容や実施方法等、十分検討し、指導計画を立てること。
- ・児童生徒等は、原則マスクを着用する。(マスクを着用する必要がない場合については「新型コロナウイルス感染症 学校における感染対策ガイドライン」を参照。)特に、発声が必要な場面では、マスクの着用を徹底する。
- ・グループ学習、班での話し合い及びペアワーク等の活動を行う場合は、マスクを着用し、一定の距離を保ち、回数や時間を絞るなどの工夫を行った上で、「密集」「密接」にならない方法を積極的に活用する。また、ICTを有効に活用するなど感染症対策を徹底する。
- ・音読や群読などは、その必要性を十分に検討した上で、実施する場合は、マスクを着用し、大声とにならないよう工夫する。なお、英語の発音練習は、引き続き CaLabo Language を活用するなど、ICTを積極的に活用する。
- ・教室等は、気候上可能な限り常時、それが難しい場合はこまめに(30分に1回以上、数分間程度、窓を全開する。)、空気の流れを作るため2方向の窓やドアを同時に開けて換気を行う。(冷暖房時も換気を行う。)
- ・授業での外部人材の活用は、実施の必要性を十分吟味し、校長が認めた講師である場合のみ可とする。実施の際は、換気、講師と児童生徒間の身体的距離を十分に確保するなど感染防止対策を講ずること。なお、講師に対し、来校前の検温及び健康状態の確認を依頼するとともに、来校時、講師の健康状態(検温、風邪症状の有無等)を確認する。また、講師の感染防止対策(マスク着用、手洗い及び手指消毒等)にも配慮する。
- ・教材・教具などを共用で使用する場合は、使用前後の手洗いや手指の消毒等を徹底するものとし、使用の都度の消毒は不要であるが、1日1回程度、消毒を行うことが望ましい。

- ・新型コロナウイルス感染症に関わりやむを得ず学校に登校できない児童生徒の学習指導については、令和3年3月1日付け教学指第1491号・教特第851号「感染症や災害発生等の非常時にやむを得ず学校に登校できない児童生徒の学習指導について（通知）」を参照すること。
- ・臨時休校や学年閉鎖等に備え、各学校のICT環境を踏まえて、オンラインでの授業や動画・課題配信等の実施に積極的に取り組むこと。

(2) 具体的な授業の場面

①体育

- ・児童生徒の運動不足や体力低下が懸念されることから、体育活動の前に準備運動を入念に行い、指導内容についても、徐々に運動強度を上げていくようにするなど児童生徒のけがの防止に十分に留意する。
- ・地域の感染状況に応じて、年間指導計画を見直したり、種目を入れ替えたりして授業を行う。
- ・密集、接触の可能性が高い運動（球技<ゴール型>、武道など）については、指導内容を精選したり、ゲーム等多人数で活動する時間を短くしたりするなど、実施形態を工夫して実施する。
- ・球技<ネット型・ベースボール型>では、少人数での活動においても身体的距離が確保できるよう工夫する。
- ・表現運動、ダンスについては、身体的距離を確保するとともに、演技する向きを工夫する。
- ・話し合い活動を行う場合は、濃厚接触とならないよう児童生徒の距離を広めにとり、短時間で言うなど工夫して行う。
- ・児童生徒が集合したり、整列したりする際には、身体的距離を十分に確保する。
- ・運動中はマスクの着用は必要ないが、児童生徒が運動を行っていない時には可能な限りマスクを着用させる。また、不必要な会話を控え、大きな声で話をしないことや咳エチケットについて励行する。
- ・器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の手洗いを行わせ、使用後は用具類の消毒を行う。
- ・体育館や武道場等で実施する場合は、十分な換気を行う。
- ・更衣室は十分な広さを確保する。十分な広さが確保できない場合は、人数を制限して時間差で着替えるなど、3密の状態にならないようにする。
- ・環境条件を把握し、状況に応じて適切な水分補給を行うなど、熱中症の予防に努める。（授業途中での給水時間の確保や屋外での帽子の着用なども検討する。）

②音楽

- ・歌唱や管楽器等を使用した活動は、児童生徒の身体的距離を十分とった上で、飛沫飛散防止や隊形の工夫等、可能な限り感染症対策を行った上で、リスクの低い活動から実施する。
- ・合唱等を行う場合は、令和2年12月22日付け教学指第1156号・教特第666号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校において合唱等を行う場面での新型コロナウイルス感染症対策の徹底について（通知）」を参照に感染症対策を徹底して行うこと。

③家庭

- ・調理実習を実施する場合は、身支度や手洗いの徹底をし、一つの班の人数を少なくして、対面とならないよう配置を工夫するなど、可能な限り感染症対策を行う。また、調理室、調理器具及び食器等の衛生管理を徹底する。
- ・調理したものを食べる際には、調理した料理は調理した班のみでその場で食すこととし、飛沫飛散防止のため、対面を避け、会話は控えるなどの対応をとる。

④職業等に関する授業

- ・産業現場等における実習については、実習先と感染防止対策について十分確認した上で、実習内容や日程等を決定する。
- ・製品等の販売会、校内カフェ、清掃サービス等を実施する場合は、関係する相手先に、感染防止対策についての理解を得る。また、販売については対面販売以外の方法も検討する。

(3) 給食、昼食等を含む飲食する場面

- ・「新型コロナウイルス感染症 学校における感染対策ガイドライン」に基づき、感染防止対策を徹底する。

4 部活動について

活動日数については、平日のみ週3日以内とすること。また、練習試合、合同練習、演奏会等については、県内外の複数の学校が参加する活動は実施しないこと。ただし、高体連、高野連、小中体連、高文連、県や中央の競技団体等が主催する大会に出場する部活動は、大会2週間前から大会までの間において、各学校の部活動の活動計画に基づき活動を行うことを可とする。

以上の事項を除き、部活動の取扱いについては、「新型コロナウイルス感染症の感染者の増加を踏まえた県立学校における部活動について（通知）」（令和4年1月13日付け教学指第1324号他）によることとする。

5 特別支援学校における対応について

(1) 自立活動について

- ・自立活動の指導等については、児童生徒等との身体的接触がやむを得ないことから、例えば、児童生徒等にかかわる者を限定する等、指導方法や内容を工夫する。

(2) スクールバスの利用について

- ・スクールバス内の密集を避けるために、保護者の負担等も考慮しながら引き続き送迎を依頼する。

(3) 医療的ケア等を必要とする児童生徒等について

- ・医療的ケアを必要とする児童生徒等及び基礎疾患等により重症化するリスクが高い児童生徒等の登校については、地域の感染状況を踏まえ、主治医や保護者等と連携を密にし、個別に判断する。

(4) 介護体験等について

- ・事前に大学側と健康診断の実施状況、実習期間や実習内容について確認をする。
- ・学生に対して、実習前に基本的な感染防止対策について十分な説明を行うこと。

(5) 学校行事について

- ・児童生徒等の障害の状況に応じて、保護者との連携が必要なこともあることから、行事の趣旨や目的を踏まえた上で、学外の参加者について制限を設ける。